

2002年2月15日

国際会計基準審議会 解釈指針委員会 御中

“Preface to International Financial Reporting Standards”

公開草案に対するコメント

この書簡は、“Preface to International Financial Reporting Standards”の公開草案に対するコメントである。

ここで表明されている意見は、作成を担当した企業会計基準委員会（ASBJ）の専門研究員のものである。したがって、あくまでスタッフの回答であり、ASBJの正規の手続による公式見解を示すものではない。

Invitation to Comment の Question 2 について、以下のとおりコメントする。

IASB が今後公表する IFRS において、従来の IAS で行われていた太字 (bold italic type) パラグラフと通常字体 (plain type) のパラグラフとの区別を廃止するという提案には反対しない。しかし、太字パラグラフは以下の観点から非常に有用なものであったと考えられることから、これまで太字パラグラフが提供してきた機能の代替として適切な要約を付すことなどにより、できるだけ理解しやすい構成を維持するような配慮が必要である。従来そのままの構成で単純に太字パラグラフを廃止する場合には、利用者にとっての理解可能性を大きく損なうおそれがある。

- (1) 法律・経済等の環境の異なる各国で共通のルールとして適用することが意図されている IFRS においては、考えられる状況をすべて網羅して規定するというアプローチよりも、基本原則の明示に重点を置くアプローチのほうが適切である。従来の IAS における太字パラグラフの使用は、こうした目的に適合したものだだったと考えられる。
- (2) 従来の IAS における字体の区別は、利用者の理解を容易にすることにおいても大きな利点があった。特に英語を母国語としない国の利用者にとっての理解可能性を高め、IAS の国際的普及を促進する効果も果たしてきたと言える

荻原 正佳

(企業会計基準委員会 専門研究員)